

大学病院連携型高度医療人養成推進事業  
選定取組の概要及び選定理由

平成21年度「大学病院連携型高度医療人養成推進事業」選定取組の概要及び選定理由

申請担当大学 (連携大学)	徳島大学 (愛媛大学、香川大学、高知大学、神戸大学、日本医科大学)
取組名	四国本州メディカルブリッジ高度医療人養成 —地域医療を担う次世代医師の育成と定着を目指して—
事業責任者	赤池 雅史 (徳島大学病院循環器内科・病院教授)
(取組の概要)	
<p>歴史的・地理的に関係の深い四国4大学とその関連医療機関が、それぞれの優れた分野を活かした相互補完を行うとともに、神戸大学、日本医科大学と連携した循環型専門医養成システムを構築することで、地域医療を担う次世代の優れた専門医及び臨床研究者を養成するプログラムである。従来の単独の大学病院による取り組みではなく、四国と首都・阪神圏の異なる医療環境で、地域医療から高度先進医療まで幅広い分野での専門診療経験を積むとともに、大学院での質の高い臨床研究を組み入れることで、卒前教育、初期臨床研修と緊密に連続・連携した魅力あるキャリア形成システムの構築を目指す。このようにして、総合力を基盤とした高い専門性と臨床研究能力を有し、地域医療の特性を理解した優れた医師を数多く輩出することにより、大学病院の機能強化を図るとともに、四国に定着し、その医療に貢献できる専門医の増加と地域医療の活性化を目指す。</p>	
(選定理由)	
<p>四国の4大学と神戸大学、日本医科大学の6大学の連携であり、地方型医療に都市型医療を補完するプログラムである。四国4大学の専門研修医にとって、神戸大学、日本医科大学への循環は魅力あるプログラムとなっている。また、大規模病院から小規模病院及び診療所まで多数の医療機関と連携する体制を構築し、四国全体を見渡した魅力あるコースの提供を通じて、優れた医師の輩出と四国への定着を図る考え方や、四国全体としての専門研修医の受け入れを計画していること、また、プログラム企画委員会と研修評価委員会、広報委員会を設置した取り組みは評価できる。</p> <p>一方で、旧体制での研修制度を徹底的に見直して作成したとされているが、コースによっては同一大学病院のみの研修や、大学病院とその関連病院の組み合わせのみの研修など、旧態依然としたものも混在している。また、他大学での研修が1ヶ月～6ヶ月までさまざまであり、1ヶ月程度の研修でどれだけ成果が得られるか疑問が残る。</p>	

平成21年度「大学病院連携型高度医療人養成推進事業」選定取組の概要及び選定理由

申請担当大学 (連携大学)	九州大学 (佐賀大学、福岡大学)
取組名	北部九州における循環型高度医療人養成事業 —大学病院連携による地域医療活性化—
事業責任者	久保 千春 (病院長)
(取組の概要)	
<p>九州大学病院では臓器移植などの高度医療、福岡大学病院では実践に即した総合医療、佐賀大学病院では地域に根付いた全人的医療を行っており、本事業では、この3大学病院が連携した後期専門研修プログラムにより、各大学病院の特徴を補完して学ぶことができ、それぞれの連携地域医療機関を巻き込んだ幅広い研修システムが構築される。</p> <p>3大学病院には総合診療科/部が存在し、大学院も有していることから、専門医だけでなく、総合医も育成され、研修を継続しつつ学位の取得も可能である。また、本プログラムを公募することは、後期専門研修のシステムが明確化され、若手医師が大学病院で研修を受けやすくなる。</p> <p>本事業の実施に当たっては、連携地域医療機関とも相互に連携し、指導医と後期専門研修医がお互いに行う相互評価を取り入れ、プログラムを改善しつつ効果的な指導体制を構築し、質の高い総合医、専門医および臨床研究者を養成するとともに地域医療の活性化を図る。</p>	
(選定理由)	
<p>九州大学、佐賀大学、福岡大学の3大学、関連機関との連携で、広範囲の研修プログラムがバランスよく検討されており、北部九州地域をカバーした意欲的な取組となっている。</p> <p>指導医が後期専門研修医を評価するだけでなく、後期専門研修医が指導医及び研修プログラムを評価する相互評価システムを取り入れていることや、多岐にわたりきめ細やかなコース設定がされていることは評価できる。</p> <p>また、3大学を中心とした高度医療から実践に即した総合医療、全人医療を担う医師、臨床研究者の育成を目的とした研修システムが策定されている。</p> <p>一方で、3大学でそれぞれ特徴があるが、教育体制にやや差があるように思われる。また、地域が広いので、その施設への研修医、指導医の循環にやや不安を感じる。</p>	